vinetur

暑く乾燥した夏の影響で、2026年のテットナング産ホップ収穫量は平年を15％下回る

アルファ酸含有量が過去最低水準となり、栽培コスト上昇に直面する生産者に加え、醸造所の調達にも影響する可能性がある

2026年11月20日（金）



ドイツのテットナング産地における2026年のホップ収穫量は、暑く乾燥した夏の影響で収量が減り、アルファ酸含有量も過去最低水準となったことから、長期平均を大きく下回った。コスト上昇にすでに直面している生産者には、さらなる負担となっている。

11月19日木曜日に発表された最終計量の公式数値によると、収穫量は8月時点の予測の約99.5％に達し、当初の見積もりはおおむね正確だったことが示された。それでも、産地の発表によれば、最終的な収穫量は長期平均を約15％下回った。

テットナングはドイツを代表するホップ産地の一つであり、ホップは醸造に欠かせない原料である

ため、今回の減収は地元農家にとどまらない影響をもたらす。アルファ酸含有量の低さは特に醸造所にとって重要だ。アルファ酸はビールの苦味を左右し、醸造所がホップの購入やブレンド、品種の使い分けを決める際にも影響する。品種ごとの供給状況にもばらつきがあることから、テットナング産ホップに依存するビールメーカーは、調達や生産計画の見直しを迫られる可能性がある。

産地は、収穫量が減少した主な要因として、夏の異例の高温と乾燥を挙げた。同時に、生産者はエネルギー、燃料、肥料のコストが大幅に上昇する状況に直面しており、収穫減による経済的な圧力が一段と強まった。

アルファ酸含有量の低さは、醸造業界にとって特に大きな課題とされた。一方、ホップの精油含有量は比較的安定していた。ホップオイルは香りに影響する重要な品質要素でもある。そのため、苦味に関わる成分が極めて低い水準に落ち込んだ一方で、醸造適性があらゆる面で低下したわけではない。

産地の主力品種であるTettnangerの収量は、1ヘクタール当たり21.2ツェントナー、すなわち約1.06トンだった。これは当初の収穫予測をわずかに上回ったものの、5年間の平均である1ヘクタール当たり25.5ツェントナー、約1.28トンを大きく下回った。Tettnangerは産地の作付面積の約45％を占め、栽培地域で依然として主力品種となっている。

収量が減少したにもかかわらず、国際ホップ市場ではTettnangerへの需要が引き続き強い。この需要の継続は産地をある程度下支えする可能性があるものの、市場全体の状況は依然として厳しい。

ビール販売の減少と、醸造所の需要を満たすのに十分な世界全体のホップ収穫量を背景に、ホップ市場全般には圧力がかかっている。総供給量が需要を満たしていても、すべての種類のホップが一様に供給されているわけではない。収穫期が終わると、市場では品種ごとの差がより明確になり、一部の品種は他より入手しやすくなるとの見通しが強まっている。

世界全体の供給量は十分で、ビール需要は弱まり、一部品種の入手は限られるという状況から、醸造所がホップ全般の不足に直面する可能性は低いものの、調達する品種によっては圧力が強まることも考えられる。テットナングの生産者にとっては、収穫量の減少、品質を測る重要な指標における醸造適性の低下、そして投入コスト上昇による継続的な経済的圧力が重なるシーズンとなった。